**＜サンスクリット語の強く発音する記号について＞**

例えば日本語には Kaはありますが、Khaはありません。

（子音にhが付くと息を吐くような強い音になる）

同様に、「Khandana bhava」のKhaの発音も日本語にはありません。

Ka, Ki, Ku, Ke, Ko, Ga, Gi,Gu,Ge,Go, Cha,Chi,Chu,Che,Cho　は、日本語にもサンスクリット語にもあります。

しかし日本語にはGa、Ba はありますが、Gha、Bha はありません。

Kha, Gha, Cha, Tha, Dha, Pha, Bha など、アルファベットがありませんから、サンスクリット語の発音は日本人には難しいです。

日本語には弱いソフトな音はありますが、少し硬い強い音はありません。

「Om Hrim ritam」の3行目の、「na bhaje…」 のbhaも日本語にはありませんから、

完璧に発音しないと、baとbhaが同じになってしまいます。

もう１つ日本語には、LaとRaの問題があります。

日本語にはLがなく、LとRの間くらいの音しかないので、発音すると、RamakrishnaがLamakrishnaに、Love=（愛する）がRove（さまよう）になってしいます。

発音は難しいですから、何回も練習を繰り返す必要があります。

集中して音を聴き、音がどこから（口や喉などの場所）出ているかを見ていて、それを真似すれば出来るようになります。

また日本語には、vaがありませんから、Om Bhur Bhuvah Suvah がOm Bur Bubah Subah になってしまいます。

我々（インド人）は自然に発音していますが、日本人が本当に勉強したいなら、発音の練習口の形の真似が必要です。

ベンガル語はサンスクリット語から発祥していますが、ベンガル人のサンスクリット語の発音は日本語の方に似ています。Bhaはありますが、それほどサンスクリット語のように強く発音しません。ですからたとえインド人だとしても、サンスクリット語を発音する時には注意深く練習しないといけません。

例えば、ガヤトリー・マントラ

Om Bhur Bhuvah Suvah /Tat Savitur Varenyam /Bhargo Devasya Dhimahi /Dhiyo Yo Nah Pracodayat.

の場合、Bhargo はBargoはではありません。また日本語には、dha はありませんね？

またサンスクリット語には、dha dhi dhu dhe dho がありますが、日本語にはありません。

このように、サンスクリット語の発音にはとても注意が必要なのです。